通信全覧二編

類輯七十一

百六十三

共百八十九

内閣文庫		
番號	和 33005	
冊數	303 (280)	
函號	184	271

(和280)

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

第十六

類輯巻之七十一　公使旅行

申七月六日於備前守宅竹本図書頭都築金三郎

英ミニストルアールコツクト對話之内

一　あなた[illegible]富士山并熱海江遊[illegible]

　　[illegible]

　　[illegible]

一　拙者[illegible]

　　旅[illegible]

　　[illegible]

一　右[illegible]

一 右條ニ付テハ手紙ニ而官事務宰相江對話
申上候ニ付猶又事務宰相ニ而相成候上之評議ニ及
兼候
一 両國之法

五十七番

申
七月八日着

第八十八号
外国事務宰相ニ啓上候
千八百六十年第八月二十三日江戸ニ於テ
魯使臣館ニて
余実熱の為め久々しく日外ニ住して廣く
配慮を不得候處 御不快と成迄ニ○是故
ニ余来る土曜日の朝ニ於て熱海乃方
ニ出遊せんとす 且之迄余此地之硫黄泉

委細数あしと云ひけれど之にて済せんと思ひしが
あり余又其途中富士山に参詣せんとせ
○此事に付名主或は其二三の役人を附
けんとを要せしが余敢て之を否む事なし
但し其時は我使役夫にある僕及又を携て
携行ける人事を願ふ而已
余私用にて出るか又遊山保養の為に旅
行するなれば只我生徒ノ両人召使及ひ
馬の口とを召ひ行而已而して其要とする

所は準じて旅具並びに人足を携へ行しか
而已○余我同居五六人と共に行し座
し到りしか余特に数多の役人（役人の如
何様の住居ありとも）妨げらるを好まず是
其役人をば召す大不便並に失費の多
増を為し得ず其尋の然るなり○
然るに此度其役人を召して熱海に
遊びし際余が他地に赴くとき我輩
の便利よう致しき様勧めて給ひなり、

辱しと存候 ○余使臣餞の為書差遣し
了一寸容も難しきかずれ候之迄を役人
に於て要し候り余が為書申候文役人ども
諸事手に寄を付くる為ニ候 恐惶敬白
日本在留大不列顛マーイエステイトの特派並使全権之
ミニストル
ルーセルホールド、アールコック 手記
同在留大不列顛マーイエステイトのワイスコンシユル
エル、ユースデン 西訳

第六

申七月十一日対州守殿於役宅中務大輔殿対州守殿英国
ミニストルアールコツクト㕝対話之内
一 当十四日当地出帆之由兼而承候処中ニ
 急之事ニ付至急承候処
一 下年ニ而昨年ゟ不絶相願候処ニ付差配
 十四年ゟ連々相成候ニ付差急キ候ニ付取計
 申候之所ニ而可然哉
一 急之事ニ而当分之所ニ而申付候様ニ取計候
一 ミニストル急ニ場所ニ而執ニ候様ニ而申之

冨士山ハ本朝ニ而第一西洋人ニてハ二番目
第二ニ候由

一 日本ニ冨士を誇ることく西洋人も有之候

一 冨士山ハ日本中ニ上無き高山也

一 西洋諸州ニハ冨士より勝れ候高山有之候

一 イタリヤ国ニフエピースと申高山有之
右山ハ火山ニ候由

一 日本ニ而高程之山も西洋諸州之高山
程ニ無之故冨士ハ第二と有之冨士ハ低き方

蒸気ニ而冨士を見候ニ付海上より眺申候
云所至而可然候由

一 火と申ハ山ニ付蒸気を上ゲ申候 伊太
いつも火を吹出し候由

一 以つれ火を出し候事ハ無之趣ニ御座候

一 新火山之火を出し候時ハ山焼と申候由

一 其船右之山ニ而手輪ニ而申候右之有之候
頭山ニ輪之有之候有之候

一 僅ニ而申候燃之茶ニ而申候手輪

之候ハヽ且亦ハ入御聴ニ可申上旨伊勢守殿江
被仰渡候ニ付、早速其儀申上候

一 蕃書調所之儀ニ付而ハ、兼而申上候通、使
節応接之節ハ、通詞役之者、不取敢召出
ニ相成候、右御用向之儀申上度

一 御目付衆ゟ申上候儀ニ付、御沙汰ニ及申間敷候

一 私共儀、御用向ニ付、出府罷在候処、御用
済之上ハ、帰府仕候様、御沙汰ニ相成候ニ付

ハルリス 面会之節、罷出候様可被仰付候

一 国々之港々、御開キ之儀ハ、兼而申上候通、無之候ニ付
配慮仕候得共、右ニ付、兼而被仰渡候次第も有之候得共、御沙汰之
可申上、左候得者、去ル御沙汰之通、御承知可被成候

一 開港之儀、不容易儀ニ付、尚又御評議之
上、可然御取計之儀、御座候ハヽ、其段
申上候、然ル上ハ、諸事取扱候ニ付

申上候、右之趣、御承知之上、御沙汰
之上、御沙汰之儀ハ、右御用之儀ニ付、二十
年来之事故、相成候様、御沙汰ニ期ニ至り

申渡置候

一 兵法稽古之儀ハ当流之外ニ附候事
手練之者ニ而ハ御目見之上ニ而心得之者候ハ

一 附候ハヽ申付其身ニ而相守可申候

一 御外ニ而我儘不致諸事慎ミ可申候

一 前後一年計ニ而申上候ハヽ其身稽古ニ
所見之上猶又相改可申承知之稽古致候
右之通可申付候

一 三之十之上之者ニ而見届候而申付候事

来り申候

一 右稽古之儀ハ先年之通相心得可申事

一 万一之儀も候ハヽ

一 右之年中并不可然儀心得違有之候ハ

一 十八歳已後ハ年々見分之上其身ニ申付可申候

一 右之儀ハ他流ニ而も稽古致し先方ニ而
当流ニ相応之者ハ可申付候

一 兵法之儀ハ相心得之上附候得共[illegible]
雖然御目見之上可申付候

一 御身ニ不及ニ候て重懸ハ可有之哉
未練之輩ハ為不勝手ニ存候
様ニ皆可為勝ハ候

一 十八歳ニ而元服之筋目之者ハ
其年十四五ニ而も中分ニ候へ共不足ニ候
其為に若年ニ而も随分之事ニ候

一 十六歳ニ出来之者候
一 十六歳ニ元服之事十五歳ニ而も十七歳之者

一 十七歳ニ元服之事
一 十七歳ニ而も日暦之年十六才出之者
相極可申候
一 元服之者ハ其年之時分ニ而も
一 之ニ而も相極ニ而も元服
一 御身之事ニ相違之事

六十二番

申
八月廿五日以飛脚出

千八百六十年第九月十二日横濱ニ於テ
外国事務宰相ニ呈書
横濱ニ来着シ我騎兵の第一の志號を著せ
しより道中何れにても人々皆よりて格外
厚く待遇せられましたるを甚敬意を深く
謝せんとす○休息所毎ニ余及ひ他の附属
士官の為ニ要用の家具并ニ我等需要
の物件を備へ其周旋方ニ致せる為ニ余

七月十二日外國奉行對話書散佚

深く公子に謝し且つ大なる公子の周旋を蒙る
事を速に吾政府に報告せしめ其志ある
事を公子は必ず信し給はんことを望む此旅
行を以て余は能く使命を復し且余か重要
に接するものは実験にして明媚なる地を旅行せ
しを以て偏見なく殊に各所の待遇深く恩
澤を蒙りたる政府の為めに余を高救せり且貴
邦の民を安穏幸福にして安寧の儀有る
事を明白に知る

此旅行に於て余を厚く待遇し且つ敬礼
せる各地の領主に其姓名を次々挙て我か謝
辞を公子より伝報し給はん事を大なる恩恵なる
也又大官及ひ村邑の役長を支配せる所の
者等に於て謝辞を以て称し併人給事し
貴国の旅行は余をして便宜を得せしめたる大官等
なり又富士山に遊ぶ事を快く此地熱海へ着する
途中通行せし市府の長官にも以て称して伝
へ給はん事を希望す

小田原領主　大久保加賀守
沼津領主　水野出羽守
フヒゴオリ領主　市江岩見守
伊豆領主　江川太郎左衛門
右下の令を以て余ニ附添ふヒセゴウ元子完

第十七

到来の節及ひ其他諸役人能其職務を尽し
正直ニ事を取扱ひ今般事を克く下
ニ告くるを致シ満足の事ニ而懇懐致候
大不列顛のバレブリタニヤマーイエスチイトの特派
全権ミニストル
ルーセホールトアールコック手記
エル、ニーステン　面譯

第十七

申
八月廿二日於本評席満石頭役并和蘭書記兼蘭ロイス
コンシユルヱルヱルエースデンコ対話之内

一 此程ミニストル致モ外古広岳参山並無海場
派兵之掃払致候上手左候ハ、和蘭商売之
往儀申候

一 ミニストル於テモ萬事一掃払之候之右
大仕之事急ニて皆手致せ被無之々少々御座成
尋候申逢お於候存居候事然ニて其事間
談り出候ハ、談判ニて其趣候

手許にても定めて道中にて疲労も有之候へは

一 道中疲労も仕候程湯に入候へは疲労も相癒且道中之趣も面白候へは
こころよく湯治相成候事ニ候

一 至極相慰候へは偏執無悔湯治之儀
外療等之気療も有之候外療等
之未済ニ候ては十分ニ無之候

一 手許にて湯治之湯を汲候て湯治之節に浴候
無之候ても無之候

一 顕も湯性並相応之効験有之候へは其場所之
急にも治り候ても不存候ても有之候ハ

一 我邦之湯泉を呑候事毒之由聞候而一向
無用之事ニ候

一 有之療養も下剤又は相応之薬を
呑候之湯治之症より宿痾之外気を付
之事故不相成事ニ候

一 高山嶽登山之事有之候天気之外之雨雪
有之事ニ候

一 此山者四季大風雨ニは頂見登山之者
日ニ而儀ハ好天気ニ有之候ニ付下山境之節ニ而
風雨有之候ハ石室ニ雅しニ保護致候
見之中ニは是高山之本外嶮阻ニ而頂ニは
無事返りしも無之右外無之易く嶮之
事ニ候

一 山上掃除ニは二位陸ニ而以よし上御所ニ而外奈良国之
安全ニ而御座候ニ付御座候ニ有之候事ニ存候ニ付
パンも外し用意之事ニ存候

一 寒暖計之度数ハ寒暖計ニ而奈良ニ而遂申請
卯ト申ハ好ミ随ひ随分有之候ニ而登山之
節ハ是迄持参致候事ニ付致置候ニ付
此度ハ是迄英国之物量器も持参致候
晴雨計之事ハ測量仕候ニ付是迄取寄
候得共二百里程有之候 佛蘭西ニ而雲ニ而
第二千フートニ而事ニ候定額仕候
壱万四千フート余有之候ニは

一 瑞西国之事ハ右相成し高山定而数多く有之事

一 右段ハ

隠分有之山々者同右も高山ニ而方々御
座候ニ付甚タ雑ミ中ニ而国嵩岳ニ如く
隠方ニ而元中業内者御も有之自然如道を
求免擧参り申候且道も篤山ニ比ぶれハ
高くニ御座候

一 未た何方中山ニ有之候哉

一 タワラツビールと申山ニ有之候且氏税
富山ニ御座候経候ニ而有之候申其志様

之税施候国権を相立て居申候を窮ミ
候て有之太平を楽ミ申候且達中
種々民家并ニ人民共難渋之無之如
何ニも安堵ニ而太平を楽ミ
候ニ気象自から高見へ識ニ從穆ニ事
ニ候又附録之候ニ而能く心付有之
識ニ雑有之候

第七

中
八月廿五日於旅宿ニおゐて酒井右京宅中務大輔殿對馬守殿英
公使アールコツクト御對話之内

一 いつも健勝大慶ニ存候

一 難有奉存候道中ハ自ら氏種々注状
あハ道中ニ而外国人旅宿之節ハ不
都合之義も有之哉者委細承り上ハ爲免
承知仕候

一 道中ニ而都合之儀も無之候間大慶之
十日ハ旅中ゟ書状差上候節中越し候

表ニ記奉申上候

一 道中筋別而海中当所之両雄有之子細

来御座候者夕慕之余雅中ニ而右奉願ニ付

之辞容之段下雑有儀未聞ニ候之事と

奉存候ニ付此段之段雄有之候事

中畧

一 此節之富士登山ニ而ニ者懸り之事ニ而御座候得共可

有之候得者此辺労之ニ候ハ之事ニ候各

一 存外高山ニ有之唐絶労之申候

冨士山之高サ凡一万四千尺之程も有之候

一 序ニ而箱根之高サ一千余尺続頂

湖水之水面より海面迄凡三千尺程有之

候

一 夫々何之測量致候ものニ候

一 軍艦之船将ゟ通辞中ニ而同人ゟ申立候ニ付
右様之近測量いたし候

一 異人ゟ差出候書付ニ而承候得共右体之義ハ申上候
属さし候通俗本を以申候處右者元出来
日本ハ何方をみても皇国ニ而百万年以来
有之右測量之儀も相済候趣ニ候

一 認兼候処右相成候

一 異国ニも以て属する山ハ世界中何方ニも有之候

中々ニ認兼候處五円申ニ候

一 夫々認兼候紙ハ相成候

一 其外何之事ニ付有之ニ候ハ申ニ候得共認兼
候迄一円申ニ候

一 神奈川ニ而ニも数ケ所ニ候

一 同人義も右用有之候事ニ申ニ候
右艘之道中取扱候ハ大ニ楽ニ相成候
其取扱おゐてハ役人共ゟ其旨申立
候ニ付右用ニ差出可申候ニ付

一 右用之儀ハ不容易ニ付見第一不慮之事も可有
之哉ニ而出立より御府迄之心配いたし居申候

一 却而御市中より遠境之方人心相考
居候様私物ニ而も見請申候

一 見候所之處一ト通り相見候心配いたし
候節も外之有之候

四十七番

申九月十一日着

第九十七号

千八百六十年第十月二十三日江戸
ブリタニヤ使臣館ニ而

外国事務執政足下ニ呈ス

余謹而御老中ニ需メテ言

しため足下ニ申入候

英吉利 但し 其外 經験之士

キセルレンニレーアールコウク富士山旅
此ふあみしるあせし外もあり悲惶
微白

函根山湖水の高サ　水面ヨリ

六千二百廿ニフート　天

富士山洞口の周縁の高サ

一万三千九百十七フート

富士山の絶頂

一万四千百十七フート

洞之幅

千九百廿八フート

洞の長

三千三百四十二フート

江戸高輪のブリタニヤワイスコヒ

レニル

エル　ユースデンヒ

申九月廿二日着

總利太泥亞ワイスコンシユル
ユスクワイル
エルユースデンド

君書我十月廿二日附第十七號之
書簡落手せり尤彼エキセルレンシー
アールコック我外國事務執政之面

命ニ而御申立候ニ付　第十二ケ條
書翰を以申越候趣致承知早
速挨拶致ト存候処右ハ手数
之段不深く承知有之度此段
進達如此御座候

萬延元年申九月廿六日　溝口讃岐守
酒井隠岐守
新見豊前守
堀織部正
村垣淡路守
竹本図書頭
鳥居越前守

第一

申
八月廿六日對馬守殿旅宅ニ於て中務大輔殿對馬守殿
佛蘭西シヤルゼダフヘールド内對話之内

一 私儀ハアールコツク同様箱根山熱海
湯治仕度存候

一 追々寒冷ニ相成候ニ付右者皆慰之為ニ候ハヽ
来年迄ニ待候方ニ而可然存候

一 本國帝都把黎斯ニ学問上之社
中有之右社中ヨリ外他国之言語の差

相分り申候今般学漏生供之附属
使ニ参越候者之内右社中之者ニ而
能々承私藩士熱海ニ罷越候節
右之者三五人召連應龍学問之
為見聞参り居候事故同人於而承居候
承合致可申旨且私進退伺上
仕趣意ニ無之存候

一 右之召連之者共ニ而も出来中出来哉

一 是又ニ於ては任候ハヽ不面白哉

同伴之者共求免ニ候而も英国
之候よりも得く海府ニ伝存候

一 右帰府遅速ニ付備手段等之儀候
漏生之召連於而も其許職掌之對し
不可然所業ニ存し候

一 仕之用ニ於而学問致之理を以而申
上候義ニ付世之無駄之儀を以申立候
事ニ候

一 諸藩憾於而ハ條約之國民を上陸不可致

積り近く名分候与談示有之極出来候ハゝ有之
義ハ其國之首長ニ而功論英亜魯蘭合衆國道之
仮令英吉利ニ候得共合衆國之國民同様
ニ致候ハゝ萬一殺合ニ及候儀ニハヤルセダフヘールニ
取置可申候

一 右承知服事致候得共外政府ニ而ハ
外國各代ニ而有之勤し無之候ニ付
皆家之儀承知仕事も有之其義附
私於宿メルロ病死仕候儀ニ而ハ代人出

他國之者ニ而可仕候ハゝ其叶申候

一 他國之者ニ而右極之振合も有之候ニ付我国
相成候得ハ政府ニメルロ代役之者を定め其上ニ而
格別右極難相成取計之段無之候得共
見合候

一 摘出募者ハ不申候

一
募者之上外國事情ハ不及ニ談示可申候

第十二

申
八月廿七日於善福寺酒井隠岐守堀織部正
亜国公使ハルリス江対話之内

一 此日本売中方ニ而ベレクル病出近之熱
海浴湯并富士登山致し度旨
漏出人茂日道ニ致旨申立候得共
子迄家来共進ミ登山御之儀ハ見合
且家来人之條約ニ而国内其事評定
去年分事ニ候処此節中方分ニ入

兵隊第一ベレクル不承知之節者
許より申諭方も有之候極々内々ニ相成候
一 支那之儀ハ難事ニ候得共ベレクル
佛蘭西ハ大國ニ付ベレクルハ
同じミニストル故右様之者をおゐて
其儀者甚難事ニ候得共
一 支那之儀者移り候ニ付右
出帆之上ハ右様之議申出候ニ付役々有之
之兵隊其節若御同時ニ御許容

一 当移之儀者申事ニ有之候ハ
ベレクルハ同許シ之方ニ住居を移し
之上ベく同人或者私并英之アール
コック抔と連ひ應之様子も不被
左道中難儀ニ相成候而も
経歴ニ不以て一時より修業之
当表ニ而も右之趣申当て都而住居
定まり候ハヽ尤當地漏洩候而ハ
候而ハ不申上只ベレクル某之儀申上

右書之趣ニ候

第十六

申九月六日於西丸下酒井隠岐守宅仏国通弁官ジラールト
対話之内

一ベレクル儀先達而対馬守殿宅ニおゐて冨士登山
并熱海湯治之義紙面を以申出候処遠外
国之義ニ付右所可及其筋中入置候処昨夜神奈
川ニ而承候ニ未御帰府無之ニ付其筋之儀如何
御よひ被成候間ジラールニ談判御よひ候

一冨士登山之儀者御止メ相成熱海湯
治之儀も未治定不致候

一 ベレクル写士を以山陽條之儀は右等も無之
孛漏生人日通之儀は已ニ申出候故孛漏生
国之事ニ而条約可取結外国人者日通之儀を
差止メ候事ニ候

一 條約取結候之国人ニ而も附属ニ
付候者ハ差支之儀無之事ニ候哉

一 附属之者之儀は江戸ニ而ジヱラール、ナメール
格別之儀ニ而国之人ニ而も佛蘭西国より
附属ニ而差遣し候者ハ宜孛漏生人ニ而当所

渡来條約調印済之国人者附属之者之外
之族ニ候ハヽ心得違之儀有之候ハヽ

一 條約済之国人ニ而もベレクル申事
ニ付而ハ右之節は神奈川より出府可致
之儀も無之候

一 士官并職人之儀は若条約済之国之
商人上陸之族ニ候ハヽ所置方之ニ而より兼而
申立候も無之全附属之者ニ而無之孛漏生
人迄も相招之事ニ候

一 耶蘇宗門ニ拝候南蛮人呼寄候節者ミニ不及
より羽を立羽を立して自己を新ニ候
者御座候

一 右根之者有之節者ミニ不及候よりも嵩数
累度いたし候

一 宗之病之者有之節者早速天主教之儀
者相者上て医師を参候本候
相之有相成も度々耶蘇宗門ニ紙

一 南蛮江戸並耶蘇宗門表之天主教之者ニ至ル
ニ所をも有之候参

一 天主教之者江戸並耶蘇宗門之者ニ参候
南蛮之者私之者人金ニ候候

一 右国人より船ニ来り之節者ニ参り候参
田山何根之事之候参

一 作之通天鉄耶蘇宗を渡し候上医師
を相候

一 富士登山並被所湯治之仮令参止メ

一 日数又ハ日限を延シ候而も其紬ニ成候ハヽ
預ケ置候ハヽ方ニ書附を以届置候
其上ニ而紬ニ極ル以書付申出候
一 日々役者之内番中其外 不届之族
子細者申上候
一 冨士登山之儀者未正月執行之場
後ハ諸事之儀之諸役人支配
其外何之度十五日程も以書付申
出ル極以申出候

一 委細之儀申付候

第十

申十二月廿七日對馬守殿宅ニ於て　大和守殿對馬守殿

亞國ミニストルハルリス江對話之内

一 手前共何事も相開候様取計候ハゝ手配
而已ニ而拝見元ミニストル之留ハ人ニ而当国
ニ而御国旅行いたし候様ニ而帰着ニ事ニ付
若手前ニも是迄旅行いたし候事ニハ無之
候得共是迄英国ミニストルも留学ハ見合り

御事有之古より自根ニ仕候とも療治ニ被成候
之事も有之て纔ニ諸方書付之採根療治
之儀中ニ而難成候間服み致候中ニ而之さらに
云状ケ間敷諸国ニ而も如何之存今方中大金
ハ無候得共近来之唐国諸国療治ニ被成候も
了ニ相成候採申之候人々南蛮附之場合同地
人心之於守ニ而ハ候事不宜義ニ候故
場所ニ宜所ニ而古場所ニ而ハ会せらる
可被仰付候

一 何れの地ニて揃し被仰付候事ニ候
一 伊勢田光之脈医師ニ宜所ニ在之候
一 医師とも二年前和蘭のりとクルキユル
チユスも参り候儀も有之候
一 医師も場所ニ而罷り候事ニ而来ル同所中
近く事ニ有之候
一 素より
同所ニ而候得ハ難も急ニ仰候而不仕候
相成候ハ近ク勤義宜しく候得ハ療治可然

好み申事ニ

一 手跡之儀ハ不及云ニ候、自他之文の上
本業之所ニ候へハ尤筆跡も雅筆ニ不致様
随分稽古申候而も何之用ニ立不申候へ共、申大
之事ニ候

一 右條之義外ニ茂又心得可有之候、新入ニ而も候、却而
ある事一つの心得ニ有之候

国立公文書館
National Archives of Japan